

# よりスケール・アップした五式戦で安藤選手2連覇 RCスケール日本選手権入賞機

併催 **KMAクラブマン・クラス入賞機**

主催・日本模型航空連盟(JMA)／関西模型クラブ連合会(KMA)

平成11年6月5、6日、京都市伏見区の関西模型クラブ連合会専用飛行場で、「平成11年度・第8回模型航空ラジオ・コントロール・フライング・スケール(F4C)日本選手権」が、日本模型航空連盟主催で開催された。全国から7選手が参加、FAI・F4C規定により5日に静止審査(機体審査)と飛行1ラウンド、翌日2ラウンド目の飛行審査が行われ、静止審査得点と飛行2ラウンドの平均得点の合計で順位を決定した。その結果、前回よりさらにグレード・アップ

した同じ五式戦で、安藤由孝選手が2連覇を果たした。

また関西模型クラブ連合会主催による、F4Cへの登竜門「KMAクラブマン・クラス・スケール競技会」も同時進行で併催され、5選手が参加した。競技はF4Cとほぼ同様なJMA「クラブマン・クラス」規定で、飛行3ラウンド中ベスト2ラウンドの合計点と静止審査得点との合計で順位を決定。こちらは、F4C日本選手権(3位)と重複出場した猿渡毅選手が、ベランカ・スーパー・デカスロンで初優勝を飾った。



詳細は次号に掲載予定

↑安藤選手の優勝機・五式戦が離陸準備に入る(第2R)。

↓出場機を前に両クラスの選手、役員一同での記念撮影。





前回、本機（96年度F4C世界選手権出場機）で初優勝した安藤由隆選手（神奈川県）は、さらにアンテナ碍子、搭乗時の引出しバー、酸素供給圧力調整機、電装パネルなどを追加装備して機体内外をスケール・アップ、エンジンもOS FS-120SEからOS FS-120SⅢに換装した同機で出場した。静止審査得点、飛行審査得点（2ラウンド目）も大会の最高点を獲得し、2連覇を果たした。

【得点】飛行1R…1342.50点、飛行2R…1542.00点、静止審査…1491.00点、総合得点…2933.25点。

【テクニカル・データ】全幅…2140mm、全長…1570mm、全備重量…6.73kg、主翼面積…64.8dm<sup>2</sup>、エンジン…OS FS-120SⅢ、RC装置…Futaba 8ch 9サーボ、スケール…1/5.6。

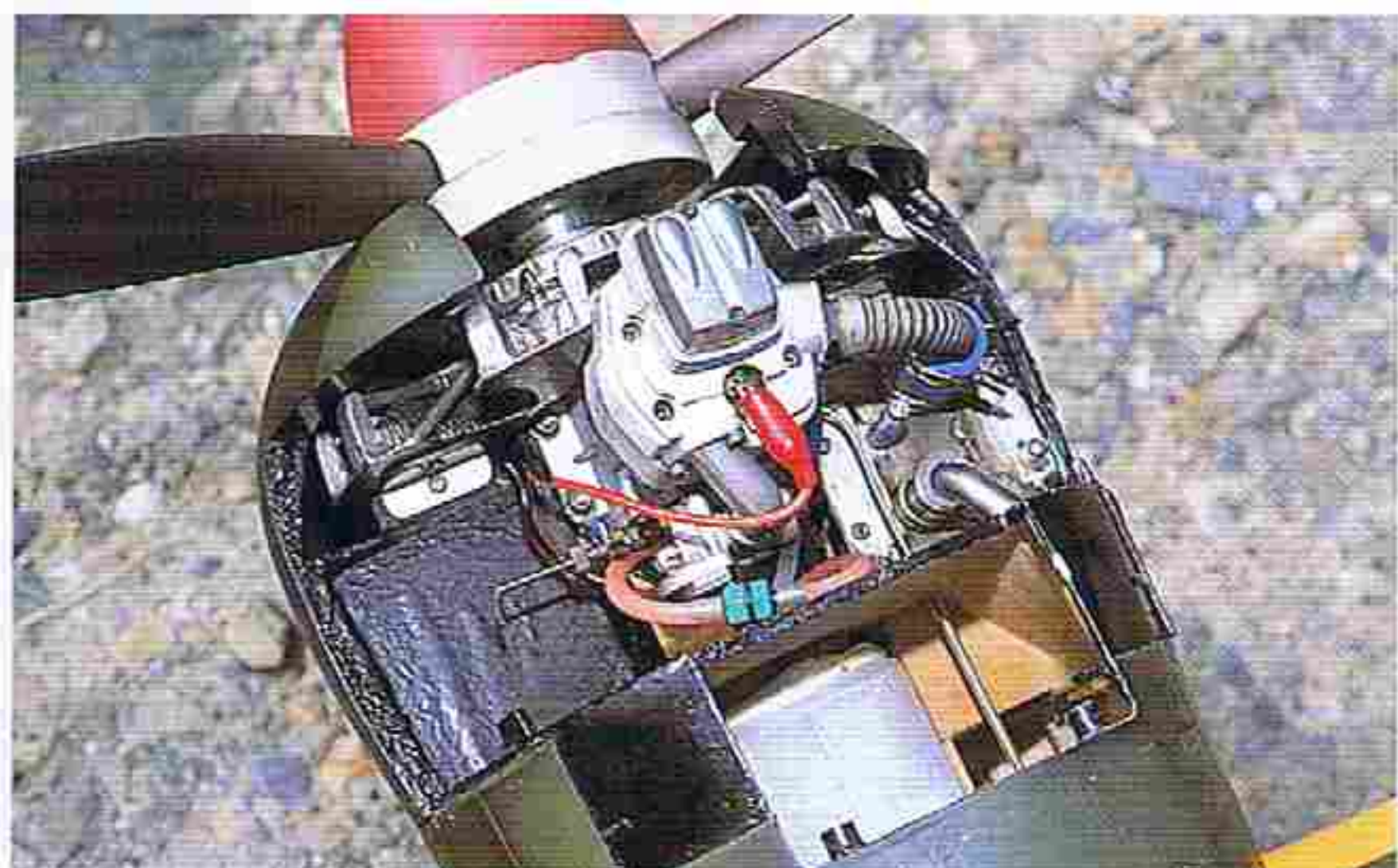


↑開閉可能なキャノピーを開けて、コクピット内部の計器盤などを見る。前回に比べ、コクピット内の機装とキャノピー周りもグレードアップされている。

↓アルミと2mmバルサ製メイン・ギヤの車輪カバー。裏面の凹凸加工は、バルサに穴を開けたアルミ・テープ張り。引き込むアームは3mmφパイプ、車輪が当たる部分は硬めのスポンジ製（実機もゴム製）。



↓OS FS-120SⅢ搭載のエンジン周り。カウリングが当たるため、換装前のOS FS-120SE用ヘッドを流用している。下側に容量550ccの燃料タンクが見える。



## F4C級 2位 藤田義則選手 ビュッカー・ユングマン



前回は、1/3.3スケールのビュッカー133エングマイスターで出場(5位)した藤田義則選手(広島)、今回は、以前購入してあったOK模型製キットをベースに、また、アメリカに現存する実機資料をスケール・モデル・リサーチ・ジャパンから入手し、補強加工など、胴体と尾翼関係を主に大改造を施したビュッカー・ユングマンでの出場。プロペラは自作のガラス製D20×P10を装備。被覆はソーラーテックス張りのウレタン塗装仕上げとなっている。

【得点】飛行1R…1209.00点、飛行2R…1247.50点、静止審査…1415.00点、総合得点…2643.25点

【テクニカル・データ】全幅…2110mm、全長…1900mm、全備重量…9.6kg、主翼面積…115dm<sup>2</sup>、エンジン…OS FF-320、RC装置…Futaba 5ch 5サーボ、スケール…1/3.5。

↓リアルに仕上げられた機体表面。この尾翼部も実機と同じ手法で、翼内部のバルサ・リブに、ししゅう糸で縫い付け、縫い目の表面にはソーラーテックスをテープ状に張り付けてある。主翼部分をも含め、このかがり結び目加工は1000個以上にも及んだという。また、補強張線は1×3mmの鉄製平板、尾灯はボールペンの透明キャップを加工したもの。

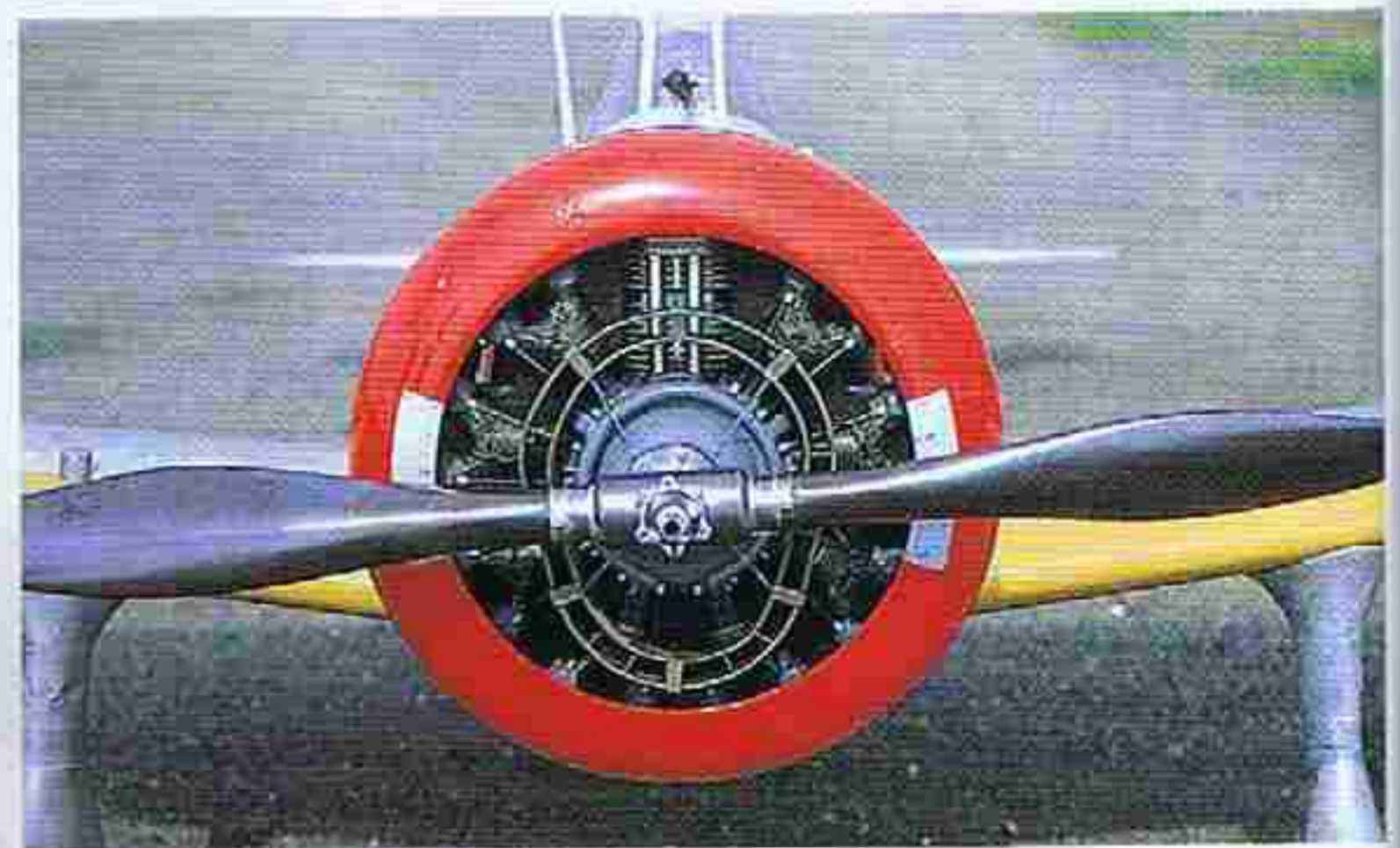


## F4C級 3位 猿渡毅選手 中島キ-27 九七式戦闘機

かつてF3A日本選手権で活躍していた猿渡毅選手(福岡)、今回は子息の隆二氏といずれもタイガースで親子出場していたが、今回は隆二氏が助手を務めた。本機は福岡県甘木市の甘木駅構内にある航空博物館にも通って実機を研究して完成させた自作機。機首が短いため胴体後半はソフト・バルサを多用、リブ補強して軽量化している。被覆は紙張りにアルミ箔を重ね、サンディングしてウレタン塗装仕上げ。

【得点】飛行1R…1211.00点、飛行2R…1359.00点、静止審査…1312.50点、総合得点…2597.50点

【テクニカル・データ】全幅…2200mm、全長…1710mm、全備重量…7kg、主翼面積…80dm<sup>2</sup>、エンジン…YS FZ140-2、RC装置…Futaba 5ch 7サーボ、スケール…1/5。



↑パイプ類など、特徴ある九七式戦闘機の機首正面。エンジン・カウリングはバルサ製、ダミー・エンジンはウィリアムズ製を利用して9気筒を構成している。写真のスケール・プロペラは、ベニヤを芯材にバルサで製作したもの。

## クラブマン級 優勝 猿渡毅選手 ベランカ・スーパー・デカスロン

F4Cクラスとダブル・エントリーした猿渡毅選手（福岡）、本機はOK模型製のキットを利用し、尾灯、アンテナなどを追加装備、また曲技飛行を目的としたため、キャビン内に6mmφのアルミ・パイプで補強をしている。オラカバ張りのウレタン塗装機。

〔得点〕飛行1R…1337点、飛行2R…1331点、静止審査…1327点、総合得点…4014点。

〔テクニカル・データ〕全幅…2300mm、全長…1850mm、全備重量…8.5kg、主翼面積…98dm<sup>2</sup>、エンジン…OS MAX-BGX 1 RING、RC装置…Futaba 5ch 6サーボ、スケール…1/4。



## クラブマン級 2位 池上孝之選手 零式艦上戦闘機52型

池上孝之選手（岡山）は、F3A界の現役選手だが、F4C競技は初体験。本機はヒロボー製キットで、胴体がFRP製、主・尾翼は発泡スチロール・コアにバルサ・プランクという構造。絹張り、ウレタン塗装仕上げで、ウェザリングを施し、機銃を装備。

〔得点〕飛行1R…1239点、飛行2R…1247点、静止審査…1371点、総合得点…3861点。

〔テクニカル・データ〕全幅…2200mm、全長…1825mm、全備重量…9.35kg、主翼面積…85dm<sup>2</sup>、エンジン…OS MAX-BGX 1 RING、RC装置…Futaba 6ch 7サーボ、スケール…1/5。



## クラブマン級 3位 山本栄一選手 ボーイング P-26A

山本栄一選手（兵庫）の本機は、丸鷹RCモデル製キットをベースに、機銃を装備し、スパンを約10cm延長、また機首部をシナ・ベニヤで補強するなどの改造を加えた機体で、紙張り、アクリル・ラッカー、ウレタン塗装仕上げしている。

〔得点〕飛行1R…点、飛行2R…点、静止審査…1474点、総合得点…3856点。

〔テクニカル・データ〕全幅…1830mm、全長…1500mm、全備重量…6.1kg、主翼面積…66dm<sup>2</sup>、エンジン…OS F S-120Ⅲ、RC装置…Futaba 5ch 7サーボ、スケール…1/5.8。

